

ションをして欲しい。

- OPAC の講習を早い時期にして欲しい。

これらは簡単に解決できないことも多く、要望や希望に沿えない点もありますが、出来るだけ解決していくよう検討していきたいと思えます。

図書館に対する要望、質問等あれば、ご遠慮なくカウンターに申し出て下さい。

附属図書館では今回初めてオリエンテーションを開催したのですが、回収したアンケートのうち80%近くの参加者が、今後積極的に図書館を利用したいと回答しています。また、新入生向けであったにも関わらず院生等の参加も見られ、潜在的に図書館利用方法についてのオリエンテーションの要求があるものと考えられます。

今後図書館では、院生向けにももう少しレベルアップした、CD-ROM や情報検索などの講習会や、留学生向けのオリエンテーションも企画していく予定です。
(参考調査掛)



目録検索講習会の実施

5月18日と19日の両日、午後3時から30分間にわたり、1Fカウンター前にてOPAC/ILIS（図書館目録検索システム）の検索講習会が開催されました。これは今年度初めて実施された新入生を対象とした図書館オリエンテーションの一環として行われたもので、参加者は18日が29名、19日が17名の合計46名でした。

説明は、まずOPAC/ILISの概要から始められ、実際の端末の操作方法については、説明者が検索画面を表示したボードを示し、それに応じて図書館員が8台の端末の前でオペレーションをするという方法で進められました。

参加人数も、実際の画面を見ていただくという点で適正であり、操作方法はよく理解していただけたと思います。

こうした機械検索は操作が簡単で、しかもあまいな情報しか持っていないでも、求めるデータを得ることができるという点で、非常に優れています。

今回の講習会では時間の制約上、1通りの方法(書名・著者名によるキーワード検索)についてしか、説明することができませんでしたが、その他にも様々な方法で検索することが可能です。検索方法についてのご相談、機械のトラブル等につきましては、1階参考カウンターまでお越し下さい。

(参考調査掛)

教養部改革と図書館

—総合人間学部の発足—

平成4年10月1日、京都大学総合人間学部が設置されました。

昭和24年、新制京都大学の「分校」として発足以来43年、昭和29年分校を「教養部」と称し、昭和38年制度化された教養部は、ここにその歴史の幕を閉じました。

近年、全国のいくつかの大学で検討が進められ、また実施されてきた教養部改革は、本学では昭和40年代より各種検討委員会で議論されてきた経過をたどり今日に至ったものです。

一方、平成3年4月、独立研究科としてスタートした「大学院人間・環境学研究科」（第一専攻）と併せて、新しい時代に対応した自然と人間との調和を目指した学部「総合人間学部」が形成されました。

平成5年4月より学生受け入れの新学部は、4学科13講座、また、大学院人間・環境学研究科は昨年10月に設置された第二専攻と併せ2専攻17講座でそれぞれ構成されています。

総合人間学部

人間学科

人間基礎論講座

生活空間論講座

国際文化学科

文化構造論講座

文明論講座

言語文化論講座

日本・中国文化・社会論講座

欧米文化・社会論講座

基礎科学科

数理基礎論講座

情報科学論講座

自然構造基礎論講座
自然環境学科
物質環境論講座
生物・地球圏環境論講座
環境適応論講座

大学院人間・環境学研究科
第一専攻 人間・環境学専攻
8 講座（講座名省略）
第二専攻 文化・地域環境学専攻
9 講座（講座名省略）

学部4学科のうち、2学科は人文・社会科学系分野、他の2学科は自然科学系分野に対応し学内でもユニークな学部構成となっています。

上記の組織整備の経過に合わせ教養部図書委員会は、この組織に対応した図書館の機能について検討を進め、学部、大学院人間・環境学研究科、全学共通科目（総合人間学部が責任部局）の教育・研究支援の図書館としての「総合人間学部図書館」の構想を教養部長に提言しました。

この検討の中では、図書館の組織運営、教育・研究図書館の蔵書構成、講座（旧教室）図書室と学部図書館との機能調整、新時代をめざす図書館（インテリジェント図書館）への展望等についても検討が重ねられました。

新学部には、教養部からの累計所蔵冊数約53万5千冊の3分の2がそれぞれ旧教室図書室に、主として研究用に所蔵、利用されています。

この研究用図書について、講座（旧教室）図書室と学部図書館をどのように発展的に機能させるかは極めて重要な問題です。

新学部図書館の構想は、京都大学図書館システムの一翼を担い、従来の教養部図書館の内容を一部修正しながら、学習に対応するよりも教育・研究図書館へとシフトする方向に向くものと考えられます。

今後、学生等の利用者、研究者、職員等それぞれの立場よりの調整を計りながら、21世紀の学部図書館を構築していくことになります。

（元総合人間学部整理掛長・現附属図書館
総務課図書館専門員 小山隆義）

各大学図書館相互利用担当の方へ

他大学の方が京都大学の所蔵資料を閲覧される場合のお願い

まず閲覧利用したい資料が、本学に所蔵されているかどうか確認して下さい。本館に直接問い合わせるときは、手紙かファクシミリをご利用下さい。電話は、聞き取りの際に間違いが生じやすく、正確な調査ができない場合があります。

附属図書館に来館の場合は、

平日（月～金）： 9時～12時
13時～17時

の時間帯をお願いします。土曜日はサービス範囲を縮小しておりますので、他大学からの所蔵問い合わせおよび相互利用の受付は行っておりません。休館日等は、事前にお確かめ下さい。本誌29巻3号4頁に本館の「開館・サービス時間一覧」を、また本誌29巻4号7頁に「平成5年度図書館カレンダー」を掲載しておりますのでご覧下さい。

来館利用の際には、次の書類が必要です。

- 1) 国立大学の教官及び大学院生の場合
国立大学図書館間共通閲覧証
- 2) 近畿地区公立大学の教官及び大学院生の場合
公立大学間共通閲覧証
- 3) 上記以外の教育・研究機関の所属者の場合
所属機関の紹介状と身分証
(紹介状には、研究テーマ、閲覧希望の資料名、閲覧希望期間を必ず記入して下さい。)

特に、3) の場合は閲覧利用の資料名を必ず明記して下さい。利用形態は原則として閲覧と文献複写に限られます。

本学の場合、附属図書館（中央図書館）以外に多くの部局図書館（室）があり、それぞれ独自の運営が行われております。したがって本館以外の学内所蔵資料の利用については、各部局にお問い合わせ下さい。

なお、本件に関してのご質問等は、資料運用掛（075-753-2632）までお問い合わせ下さい。